

顔の見える木材での快適空間づくり事業

【テーマ】筑後川流域の木材を使用したモビリティBOXの開発と、森とまちをつなぐ新たな木材ビジネスを創出する

背景と目的

【背景】

- ・移動販売やワーケーション、キャンプなどにおけるモビリティ需要が拡大
- ・おうち時間の充実にとともなう天然素材のDIYやインテリアが人気
- ・SDGs等を受けた消費意識の変化を踏まえたマーケティングの必要性

【目的】

- ・地域材の新たな需要創出と木育のビジネス化による中長期的なファンづくり

対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

市場環境変化を捉えた新製品開発を行うと同時に、それら新製品に関する木育プログラム(ワークショップ等)を事業として成立するかたちで仕組み化することによって、中長期的なファンづくりにつなげる。

① 移動できる快適空間ユニット

= 地域材モビリティBOX【森箱】(仮称)

軽トラの荷台に載せるだけで様々なシーンの拠点になる木製ユニットを開発する。「森」をキーワードにストーリー性を付加し、移動可能かつデザイン性の高い快適空間を実現。標準仕様と複数の用途別オプションパッケージを開発し、様々な事業者に対して活用を提案する



地域材モビリティ【森箱】のイメージ

② 木っ端インテリアやDIYに関する製品群

様々な森の素材(間伐材、枝、葉、蔓)や製材所などで発生する端材や木屑を「木っ端」と定義しインテリア商品やDIYキット等を開発。ブランディングを行い、それら製品の手作りワークショップなどと併せて事業化をはかる。



木っ端DIYキット(イメージ)



ワークショップの例:スワッグづくり

事業実施主体
吉弘製材所

実施体制・連携グループ

【事務局・コーディネート】 吉弘製材所

【林業】 浮羽森林組合、浮羽木材協同組合

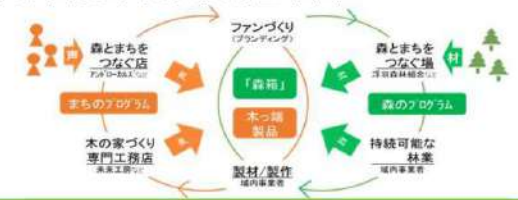
【製材/製作】 浮羽チップ生産協同組合、(株)堤木材、東部産業(有)

【連携工務店】 (株)未来工房

【連携店舗】 (株)アントローカス

【その他連携先】 久留米大学※

※都市と里山をむすぶ新たな教育・研究プログラムの構築をテーマとする研究教育活動を実施予定



事業内容(利用拡大に向けた具体的な実施項目)

① 地域材モビリティBOX【森箱】の開発・制作

- ・市場環境調査をもとに、高い汎用性を担保する標準仕様を開発する。
- ・木取りや加工等の工夫による高いコストパフォーマンスの実現を目指す。
- ・標準仕様にDIYワークショップや物販等の拠点としてのオプションパッケージを加えた【森箱】を試作し、使用しながら磨き上げる。また、他の用途への展開可能性を研究し、それらに合わせたオプションパッケージの開発も行う。

② 森とまちをつなぐ新たな木材ビジネスの開発

(a) 木っ端製品群・ブランドの開発

- ・生活者視点で「木っ端」を見つめなおし、新たな価値観や生活習慣を踏まえたインテリア小物やDIYキット等の製品群を開発し、ブランディングする。

(b) 事業として成立する木育プログラム(有料ワークショップ等)の開発

- ・従来リーチし辛かった“まちの主婦層(及びその家族)”を主な対象とする。
- ・上記②-(a)で開発した木っ端製品群の「素材集め」や「手作りワークショップ」などをストーリー性のある有料木育プログラムとして体系化する。
- ・「森を見て、木を魅る」新たな事業モデルの構築を目指す。

③ 【森箱】を用いた木育プログラムの試行(森とまち、各複数回実施)

- ・【森箱】が地域とまちを回遊して上記「木育プログラム」を試行する。
- ・試行を通じて新製品やプログラムの磨き上げを行うと共に、木育プログラムを通じた地域/木材製品に対する理解促進やファンづくりの可能性を検証する。

スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

新製品・木育プログラム開発

ビジネスモデル構築、報告書作成

新製品試作、木育プログラムの試行。磨き上げ